

アンケートにご協力ありがとうございました

まち協の課題の共有に一助、結果を詳しく分析し今後の方向づけに

城見まちづくり協議会は7月から8月末にかけて全世帯を対象にアンケートを実施しました。61%以上の方から回答を頂きました。ご協力ありがとうございました。

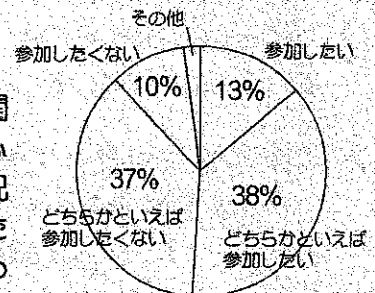
9月はじめの事務局で行なった第一次集約をご報告します。年末から年はじめにかけて詳しく分析し、来年度以降の活動 運営にいかします。

「41才～64才」「65才～80才」の2つのグループに回答者集中

アンケートの記入者は21才～80才代と広範囲にわたっています。記入者が特に多かったのは「41才～64才」「65才～80才」のグループで80%を占めています。この年代の人がまちづくり協議会の中心的な存在と言えます。

広報活動を活発にして！ 参加に肯定的な人が過半数

今までの行事や集会への参加状況を見ても「安全 安心」部会に関しては「消防訓練」と「パトロール活動」への参加が目立っています。「ふれあい部会」では、ウォーキング、大見山登山、そして講演会への参加状況はほとんど差がありません。これら2つの部会の活動に参加されなかった理由を尋ねたところ「知らなかった」と「興味関心がない」が30%を占めています。詳しい分析を待つまでもなく広報の充実が求められています。



また、まちづくり協議会への参加については「参加したい」「どちらかといえば参加したい」を合わせると51%。「どちらかといえば参加したくない」「参加したくない」を合わせると47%となっており肯定的な意見が上回っています。

これからの活動に対する意見は

城見地区で問題だと感じるのとはどんな点ですか？と10項目から3つ選んでもらったところ、1番多かったのは「歩いて買い物に行ける店が少ない」で72%を超え、「街灯が少なく、夜道が危険 ガードレールやカーブミラーも少ない」が48%で続き、「医院など医療機関が少ない」が37%とベストスリーです。

城見地区で問題と感ずるのは？

歩いて買い物に行ける店が少ない	72%
街灯が少なく、夜道が危険 ガードレールやカーブミラーも少ない	48%
医院など医療機関が少ない	37%
狭い道が多く、信号機が少ない	31%
里山や田畑が荒れ、雑草や害虫等の問題	31%

次に城見地区の暮らしを良くしていくためには何が必要と思いますかの質問に対し、12項目の中から3つ選んでもらったところ「若い世帯が安心して子育てができる環境づくり」53%、「一人暮らしの高齢者に対する取り組み」45%、「道路の整備、充実」27%が1位から3位です。次に「高齢者が集える場所（歩いて気軽に行ける商店や喫茶店）」と僅差で続いています。

城見地区の暮らしを良くするには？

若い世代が安心して子育てができる環境づくり	53%
一人暮らしの高齢者に対する取り組み	45%
道路の整備、充実	27%
高齢者が集える場所	27%
仕事を増やす	26%
地域の交流、世代間の交流	26%

視点を変えて、まちづくり協議会の事業として希望することを2つ選んでもらったところ「地域の食堂、高齢化する住民の憩いの場、コミュニティの場づくり」52%、「草刈りボランティア：草刈が難しい高齢者等の家の周囲の草刈りを請負う」44%が1位、2位を占めています。続いて「特産品開発活動：地域の産物を利用して特産品の開発を進め地域の活力をもたらす」34%となっています。

回答は多くの方々が「自助」「共助」「公助」のまちづくりの標語の指向に沿っているように思えます。

また特筆すべきは「郷土の歴史とお宝の編集：今のうちに城見の歴史をまとめ次世代へ引き継ぐ」事業を26%の人が望んでおられることです。

詳しくアンケート結果を分析し、地域の人々の幸せに繋がるよう議論を深めつつ、取組みをすすめます。

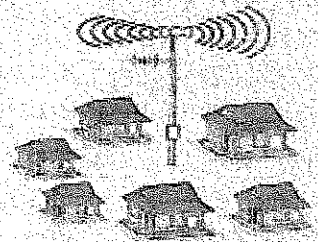
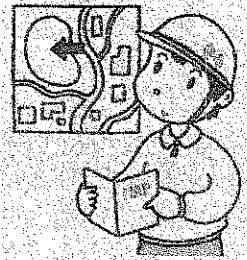
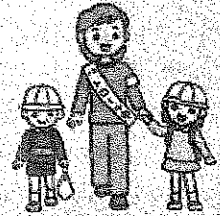
安全・安心部会

年度後半へ向け活動の活発化を

安全・安心部会では倉敷市での子ども誘拐事件、広島の土砂災害を受け、今まで以上に現実的な対応、活動を進めようとして確認しています。

9月23日には第2回目の安全・安心部会を開催し、次の4点が話し合われました。

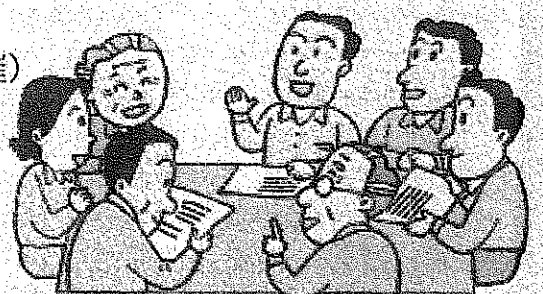
- ① 各地区パトロールの実施要領とその進み具合。今までの議論では各地区で話し合っただけで決めること、また、青パト、PTAなどとの取り組みと連携する。さらに城見台地区の取り組みが大いに参考になるのではなどがでています。
- ② 防災、避難訓練についての計画と既にやった地区との交流。大見地区からは子どもを中心にして消火訓練や登下校時の避難訓練の計画など報告されました。防災マップができていますのでこれを基にまずは実施すること。そうすれば問題点がはっきりするとの意見が多くありました。
- ③ 同報系通信設備（災害発生に関する情報の伝達《屋外スピーカー》また避難場所《放送塔の設置場所》から市役所や関係機関とやりとりできる設備のこと）が今の計画では用之江と茂平地区になっており、大見と城見台は入っていないので早急に「要請書」を作成し、市に要望すること。そのため署名をお願いします。
- ④ 安全・安心活動に関する幟旗が先月の台風でほとんど破損しました。新しく作り、各地区20本を配布します。



今回の会議を受け、各地区で具体的な取り組みをぜひ進めていただければと思います。

当面の行事、会議の予定

- 9月23日(火) 安全・安心部会
- 9月25日(木) 郷土史編集委員会 (今後月1回程度開催)
- 10月7日(火) ふれあい部会
- 10月14日(火) 事務局会議 (アンケートの分析など)
- 10月19日(日) 大見山登山道の一斉整備
- 10月28日(火) 役員会議 (顧問に出席要請)
- 11月3日(月) 君ならできる地域の安心安全 (大見集会所)



ふれあい部会

大見山登山道の草刈り 後半スタート

ふれあい部会を10月7日に開催します。

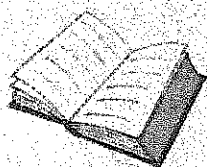
《議題》

- 前期の活動と交流
- 秋期大見山登山道の草刈り（10月19日一斉に）
- 大見山ウォーキングマップ（改訂版ができました）
- 今後の大見山ウォーキング計画依頼（各種団体に登っていただくよう宣伝）
- 大見山山頂での新年祭
- 大見山山頂付近に西洋シャクナゲの植樹
- 「ミニこいのぼり」の取り組み



大見山からの美しい眺め

まちづくりの役員や部会のメンバーにお気づきの点があれば伝えていただくと幸いです。
（役員やメンバーはかわら版7月号に掲載）



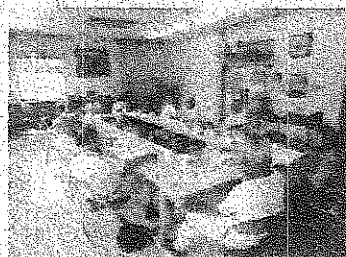
「城見郷土史」を作ります

編集参加と資料提供のご協力をお願いします

城見地区まちづくり協議会は「ふれあい」活動の一環として、城見郷土史を作ることに致しました。城見の歴史を見直し、新しい地域の絆づくりを目指す活動として平成28年3月発刊を目標としています。

郷土のことをより深く学びたい、埋もれた史実を探したい、散策時のガイドブックにしたい、そして郷土を次世代へ語り継いで伝えたい、などの思いで取り組んでまいります。編集委員を中心に作業を進めてまいります。地域の皆さんと共に創る「郷土史」とするため、皆様のご意見をお寄せいただくことが出発点となります。聴き取り調査や編集作業への参加、また積極的な投稿などをお待ちしています。地区ごとの編集委員に声をお掛けください。

この地区での郷土史作りは初めてで、資料も不十分です。古文書、絵図、写真など、お手持ちの史料をご提供ください。その一部は11月30日の公民館文化祭で展示を計画しています。なお、ご提供いただいた物は大切に扱い早めにお返し致します。



城見郷土史編集委員会の様子

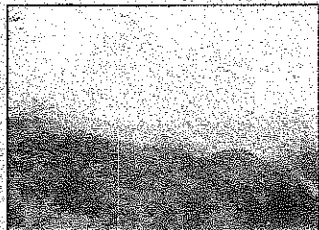
編集委員（平成26年8月26日結成、編集委員会発足）

用之江	安藤清孝 (66-3068)	城戸英晴	伏見 渉	城戸洋子
茂 平	高田正宏 (66-3710)	松浦良治	高田英治	
大 宜	坂本 健 (66-4465)	藤原 勉	坂本富則	松浦宏幸
城見台	森下隆志 (66-4230)	川内一彦	縄稚ひろえ	
事務局	城見地区まちづくり協議会	TEL 66-5133		(敬称略)

ふるさと城見のあれこれ (其の八)

～「皇国地誌」に見る130年前の城見地区～

明治9年(1885年)編とされる「皇国地誌」があります。当時の各村の状況を記録したもので、「笠岡市史 史料編 上巻」に収められています。



今回は、130年前の城見地区の姿をその地誌から拾って紹介します。

三村の管轄沿革は同じで、古代から永く「魚渚郷」に属していました。江戸時代元禄のころ福山藩領となりますが、やがて幕府領となり代官が支配します。大政奉還後は、倉敷県、深津県、小田県を経て岡山県となりました。

戸数は現在いずれも倍以上になっていますが、核家族化して人口はさほど増えていません。労力として牛を飼育していました。労力にすると同時に、子牛を産ませて育てて売るために、牝牛を飼っていました。輸送手段は舟と小車でした。(自転車の国産第1号は明治23年)

小学生の数から見て、女子の不就学が多かったことが推測されます。糸や布の生産をしていたわけで、大目には白木綿1,800反、用之江は500反、茂平1,500反とあります。大目は他に清酒100石と記録されています。

職業は、一次産業が圧倒的です。大目は、農業127戸 商業2戸、用之江は、農業113戸 工業2戸、茂平は農業88戸 漁業50戸とあります。職業は個人の問題ではなく家業でした。三地区とも、紡績に携わる女性がかかりの数(大目128人、用之江200人、茂平75人)ありました。

現在と比べながらその変貌を見ると、産業構造がまるで変わったものになり、経済の規模が比べものにならないほど大きなものになっています。これから100年後、この地域はどのような地域になるのでしょうか。

城見地区まちづくり協議会 顧問 安藤清孝

	税地	貢租	戸数	人数	牛馬	船・車	小学生
大 目	68町 5反	716円	129戸	男 358人 女 333人	77頭 牝牛2	舟2、人力車2 小車13	男 34 女 12
用之江	92町 1反	1,033円	115戸	男 303人 女 282人	33頭 皆牝牛	人力車3 荷車4、小車6	男 30 女 5
茂 平	116町 2反	1,150円	138戸	男 367人 女 366人	34頭 皆牝牛	舟56 小車3	男 52 女 14

～ お詫び ～

かわら版7月号でお知らせした「ふれあい部会」メンバー表にもれがありました。心からお詫び申し上げます。訂正いたします。

ふれあい部会メンバー表の民生(児童)委員のところに「松浦喜孝さん(大目)」が入ります。どうぞよろしくお願ひします。

また、「坂本恒裕さん(大目)」がご都合で辞められました。後任に「松浦忠昭さん(大目)」が就任されます。どうぞよろしくお願ひします。

《編集後記》

暮らしの安全・安心が脅かされることが多く発生。城見地区は「安全」という考えは楽天的のような気がします。今までに学び、しっかりとした「絆」を築いていきましょう。

城見地区まちづくり協議会

笠岡市用之江334番地 TEL0865-66-5133

毎週火曜日の午前9時から12時まで在室しております。
お急ぎのご用件等は、事務所の郵便受けをご利用下さい。